



ラタナーヤカ・ ピヤダーサ 氏

スリランカ出身、経済学博士
佐賀大学名誉教授

プロフィール

1951年スリランカ・ヌワエリヤ生まれ。78年スリジャヤワルダナプラ大学卒業。82年来日、東京大学大学院農業経済学研究科修士課程修了。85年に龍谷大学経済学研究科修士後期課程に入学し、90年に龍谷大学より経済学博士の学位を取得。97年佐賀大学経済学部教授職に就任、以後30年に渡りアジアの経済発展について研究。09年に日本国籍を取得。そして2017年に名誉教授に就任。当協会が作成した外国人向け生活ガイドのシンハラ語版作成にも協力。



Q1. 佐賀（日本）に来たきっかけを教えてください。

母国で大学教員や公務員等を勤めた後、日本の農業発展の経験を学び知見を得るために来日しました。大阪外国語大学で日本語を学び、東京大学と龍谷大学で大学院修士・博士課程を修了して、1989年から2017年まで佐賀大学経済学部の教員として勤めました。日本の大学院を研究活動拠点として選択したきっかけは、大学入学判定試験において「日本文化」を選択したことと日本で学べないことがあると思ったこと、特に日本の「人的資源育成」のあり方に強い関心があったことでした。

Q2. 来たばかりの頃、佐賀の様子はどうでしたか？

最初の4年は関西で過ごしました。当時私にとっての一番の課題は日本語でしたが、多くの日本人の方々と協力を受けて日本語を学ぶことができ、他の日本人学生と同じように日本語で専門分野を学ぶことができました。佐賀には1989年に移住しました。移住前から多くの日本人の友人に「佐賀の人は外部の人、特に外国人を受け入れない」、「何も無い町」などの消極的なことがよく言われました。しかし、実際に来た時の印象は母国の実家と同じように感じました。緑が多く、人と車が少なく、田んぼが多い環境が似ていたからです。逆に困っていたことは「アパート探し」と「周囲からの眼差し」でした。それほど、当時は佐賀に在住する外国人が少なかったからだと理解しています。

インタビュー
全文はこちら ▶



Q3. 近年の佐賀はどうですか？

佐賀は私の故郷になっています。近所の方々が親戚のように私を受け入れてくださり、私や私の家族に何か問題が発生しても必ず助けてくれます。地域の方々は私を他の日本人と同様に受け入れてってくれています。今現在、佐賀県のどんな小さな市町村に行っても誰も私のことを特別な目で見ることはありません。そこで感じたのは、佐賀の皆さんは多様な文化をもつ外国人とともに生きること慣れてきており抵抗感を持たなくなってきた点です。たとえ日本語があまりできなくても佐賀でいたら地域住民と一緒に安くて安心した楽しい生活ができる環境が構築されていると感じております。30年前と比べて、現在佐賀は外国人にとって非常に住みやすく安心安全な地域であることは間違いありません。

Q4. これからどんな佐賀になってほしいと思いますか？

佐賀に伝わる伝統的な文化、習慣、お祭り、環境、宗教、経済、社会などに悪影響が無い形で世界に開かれた地域になって欲しい。それによって佐賀の経済、特に農業と伝統的な地域産業等の更なる発展に貢献してもらえば理に合うと思っています。SPIRAはその目的を達成するための重要な役割を果たす機関となっているのは間違いありません。将来、外国人と佐賀の地域住民との関係を結び国際交流に関する事であれば何でも相談が可能なセンターになることを強く期待しています。



貞松 明子 氏

佐賀県日本語学習支援
"カスターネット"

プロフィール

日本語教師歴約30年、主に佐賀大学で留学生に日本語を教える。2010年に佐賀県日本語学習支援「カスターネット」を立ち上げ、文化庁の事業を受託以降、県内の在住外国人を対象とした「初級日本語集中講座」、日本人対象の「日本語支援ボランティア養成講座」、等を数々実施。2016年から文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」のコーディネーターを県内数か所で務める。現在、佐賀女子短期大学 日本語講師。



Q1. 国際交流や外国人支援を始めたきっかけを教えてください。

30年ほど前、日本語教師になったのは友人に誘われて興味を持ったからです。佐賀大学の留学生と家族に日本語を教えるところ、佐賀県国際交流協会の海外技術研修員への来日時日本語教育に関わるようになりました。ブラジルやペルーなどの日系人や中国、韓国からの外国人が1年間企業などで研修するプログラムです。また協会主催のボランティア養成講座や日本語教室にも関わるようになりました。

Q2. 30年前の当時、佐賀の様子はどうでしたか？

まだ在住外国人の数は少なかったと思います。留学生、ALT、配偶者など私知っている周りの外国人がすべてだったのではないのでしょうか。アフリカからの留学生から「人々の視線が痛い」と言われたことがあります。肌の黒い人が珍しかったということです。でも、白い人からも同様のことを言われたこともありますから、多文化共生などという言葉もなかったと思います。国際交流というのは、行き来することでした。

Q3. 近年の佐賀はどうですか？

講座で講師をするとき、「佐賀に外国人は何人住んでいると思いますか？」という問いから始めるのですが、答えはずっと「4,000人」でした。それが数年前から毎年500人ぐらいつづ増え始めました。時代が変化してきました。技能実習生が増え、多様な国から多様な人々が佐賀に来て住むようになりました。身近に外国人を見掛けることが日常的になり、否応なく「多文化共生」の視点が必要になりました。

Q4. これからどんな佐賀になってほしいと思いますか？

多様な人々、多様な文化、多様な生き方などをお互いに認め合い、「やさしい日本語」を使って意思疎通を図り交流できる佐賀になってほしいと思います。佐賀だからこそできることがたくさんあるはずです。SPIRAに期待するのは、これまでのように、対外交流事業だけでなく在住外国人支援も含めた「国際交流」を担う最前線の活動です。今後も県全体を引っ張っていく機関であってほしいです。市町にはまだ「多文化共生社会」の到来とその意識を持つ必要性が伝わっていないところもあると思います。もうお隣に外国人が住むのが当たり前の時代なのです。在住外国人の支援と日本人への啓発活動にますます励んでいただきたいです。



前島 梅子 氏

日本語ネットワーク佐賀
代表

プロフィール

平成2年4月佐賀県国際交流協会設立当初より職員として勤務し、平成11年3月まで在職。

その後平成11年4月より日本語ネットワーク佐賀（日本語教室）に関わり、約20年の活動を経て現在は代表を務める。

以前から趣味として佐賀錦を織っており、同時期より佐賀錦振興協議会での活動を開始し、現在も所属。

佐賀県国際交流協会 評議員。



Q1. 国際交流や外国人支援を始めたきっかけを教えてください。

平成2年2月7日に佐賀県国際交流協会が設立され、4月1日付けで事務職員として、採用されたことがきっかけです。それまでは、国際交流や外国人との接点はない生活でした。

Q2. 30年前の当時、佐賀の様子はどうでしたか？

30年前、佐賀県海外技術研修員受け入れ人数は、南米等の佐賀県県人会及び中国からの農業研修員等で約20名、さらに外国語指導助手約50名。大人数でそれぞれの生活や日本語の指導等とても賑やかでした。また、佐賀市の656広場でのブラジルフェアの開催、日韓交流フェア、南米等からの里帰り事業等、楽しい事業が目白押しでした。当時、日本語を教えるボランティアを育てる講座が開催されました。興味がある人を募集し、講師は佐賀大学で留学生やその家族に日本語指導をされている先生です。その卒業生が、ボランティア団体「日本語ネットワーク佐賀」を設立され、活動しています。佐賀県国際交流協会主催の「日本語会話教室」でプロの講師と共に、一つのクラスの担当をして活動の場をいただき、現在に至っています。日本語が話せる事と日本語を教える事は全然別だということを、私は身をもって体験しました。

Q3. 近年の佐賀はどうですか？

以前は佐賀県の日本語教室は少なく鳥栖、唐津、佐賀の3ヶ所だけでしたが、この30年で教室の数が増えたことはとても良いことだと思います。当時私が担当していた教室には、中国帰国者が多く通っていました。教室の時間帯以外の夜の時間を希望された場合には、その人の自宅に通ったこともありました。その後、年々様々な背景の人たちが教室を訪れましたが、年によってバングラデシュの人が多かったり、インドネシアの人が多かったり、傾向が全く違ったことが印象的です。おそらくその年の情勢も関係しているのでしょう。また、ALTや研修生が多く通っていたときはクラス分けをしていましたが、近年協会のボランティア養成講座をきっかけに教室が増えたことで、現在は個人それぞれのニーズに合わせて対応できるようになっています。

Q4. これからどんな佐賀になってほしいと思いますか？

佐賀県の国際交流や国際協力の中核的組織として設立された佐賀県国際交流協会がその役目を終えて、多文化共生があたりまえの社会になっていればいいと思います。



カルミナ ルイズ ムラカワ 氏

メキシコ出身、
SPIRA 出前講座講師

プロフィール

1980年11月に来日。東京で一年過ごし、1981年来佐。1990年代、香月元知事の通訳で初めて国際交流の事業に携わる。

その後、12年間NBCラジオの朝の番組にてパーソナリティを担当。子どもたちが幼稚園に行き始める頃から自宅でスペイン語や英語教室を開く。

現在は看護学校で教鞭をとりながら、SPIRAの出前講座講師としても活躍。



Q1. 佐賀（日本）に来たきっかけを教えてください。

大学時代に、仕事でメキシコに来ていた佐賀出身の主人と恋に落ち、わずか8か月で周囲の反対も乗り越えて結婚をしたことがきっかけです。その後、最初の1年は主人の仕事の関係で東京で過ごしました。寂しさもありましたが、自分も家族も後悔しないようにできることはなんでもしました。その頃のわたしは日本語がほとんどできませんでしたが、近所のご家族が、お茶や公園、買い物に誘ってくれ、言葉の壁を感じませんでした。その家の男の子に「お姉ちゃん」と言われたのが初めて覚えた日本語です。

Q2. 来たばかりの頃、佐賀の様子はどうでしたか？

当時、外国人は全然おらず、頼れるのは主人だけでした。後から教会のイタリア人神父さんと知り合い、日本人と繋いでくれたりたくさん助けてくれました。外では「外人」や「鼻が高い」と言われ、辞書で調べて意味がわかった私は「私から見ればあなたたちも外国人」と思いました。一方、主人の実家では、朝食にステーキを出したり、お昼寝する私に驚く義母とも文化の違いを互いに感じる日々でした。でも、最終的には義母もお昼寝の習慣がついたり、食べ慣れないチーズやアボカドが好きになって、私も苦手だった梅干しが好きになりました。

Q3. 近年の佐賀はどうですか？

もう「外人」と言われなくなったでしょう。何か相談したいときも、簡単にアクセスできるようになり、とても恵まれていると感じます。当時は外国語のサポートもなく、私は、運転免許の取得等で大変な思いをたくさんしてきました。しかし、私はそれをマイナスには思いません。過去の不便さがあったおかげで成長できたからこそ、今は自分が困っている人をできるかぎり助けてあげたいと思います。先日、困っている外国人のために通訳をしました。以前の自分を振り返り、人の役に立てるようになったことを嬉しく思います。今の便利さは、これまでの外国人、SPIRAが頑張ってきた成果です。

インタビュー
全文はこちら



Q4. これからどんな佐賀になってほしいと思いますか？

人々に物の便利さだけでなく、心の豊かさの大切さにも気づいてほしいです。「何人だから〇〇」、「〇〇人らしくない」と決めつけないで、ひとり一人を尊重し、お互いの良い部分をミックスして、自分らしく生きていくことが大切です。何より、海外のどんな人達も日本に来やすい仕組み作りが、国際交流の始まりではないでしょうか。

創立30周年記念式典

1990年2月の設立から2020年で30周年を迎え、設立30周年を祝う記念式典を開催しました。126名の方々にご出席いただき、日頃の感謝を直接お伝えできる機会であると同時に、30年来の懐かしい顔ぶれとの再会を喜ぶ姿もみられました。



【日時】2020年11月14日(土) 14:00～16:00

【場所】ホテルマリターレ創世



第一部

19団体、15名の個人と県内の地域日本語教室の皆様向日頃の感謝の意を表し、記念品を贈呈させていただきました。



第二部

認定NPO法人テラ・ルネッサンスの創設者である鬼丸昌也氏を招き、基調講演をしていただきました。

講演では、鬼丸さんのアフリカ ウガンダでの少年兵の自立に向けた支援活動や、カンボジアでの地雷撤去活動のお話をいただきました。中には、心が痛むようなお話もありましたが、鬼丸さんは世界で起きている紛争の事実をそのまま伝えてくださり、聴く人に、争いをなくすには「私たちに何ができるのか」ということを深く考えさせてくださいました。



そのほか、会場横のホワイエでは外国人住民や県国際課のCIR（国際交流員）らによる「ワールド・カフェ」も開催し、世界のお茶やコーヒー、お菓子を来場者にふるまい、世界を感じてもらう機会もつくりました。

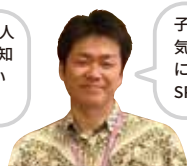
当協会の活動がこれまで継続できたことは、ひとえに県内で国際交流・協力活動をされている団体や、個人、地域日本語教室の皆様、協会ボランティアの皆様、賛助会員の皆様のご協力に支えられてきたからこそであると、職員一同感謝いたしております。私達、佐賀県国際交流協会（SPIRA）は、これからも県内の多文化共生の推進に尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



【相談員】大室 文



平 実穂



北村 浩



【企画交流課長】矢富 明徳



【理事長】黒岩 春地

これまで、
これからも。
誰をも受け入
れるあたたが
いSPIRAで!

佐賀の外国人
全員と顔見知
りになってい
る^^

子どもたちも
気軽に遊び
に来られる
SPIRAに!

用がなくても
フラッと立ち
寄って、気軽
におしゃべり
できる人と場

佐賀県に住む外
国人一人ひと
りのおかあさん、友
達、仲間になれ
ていいな。

功労者の紹介 記念品の受贈者紹介

団体

- 特定非営利活動法人 愛未来
- アジアパシフィックアライアンス・ジャパン
- 医療通訳サポーター
- オイスカ佐賀県推進協議会
- 唐津ボランティアガイド
- 子ども日本語学習サポーター
- さが♡わーどりんぐ
- 佐賀県行政書会
- 佐賀県日中友好協会
- 佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
- 佐賀県弁護士会
- 佐賀県ユニセフ協会
- 佐賀地区中国学友会
- 佐賀ユネスコ協会
- サワディー佐賀
- JICA 九州
- 認定 NPO 法人地球市民の会
- 認定 NPO 法人 テラ・ルネッサンス 佐賀事務所
- 特定非営利活動法人 難民を助ける会 (AAR Japan) 佐賀事務所
- 地域日本語教室



※ 50 音順、敬称略

個人

- 伊東 祐郎
- 大石 美穂
- カルミナ ルイズ ムラカワ
- 白濱 百合子
- スリ ブディ レスタリ
- 孫 勝強
- 高久 ディディク
- 田村 太郎
- チャン ミヨン
- 鶴田 クリスティーナ
- 徳渕 結
- マイケル チョン
- 前島 梅子
- 松枝 久泰
- ラマ カンチャ



※ 50 音順、敬称略

SPIRA 職員に聞きました! 「10年後、どんな SPIRA になりたい?」



高取 麻美

「困ったら SPIRA に相談しよう!」そうみんなから頼られる存在!



【相談員】永田 さつき

地域に溶け込んでしまっ、形がなくなっている!



王 敏詩

外国人の居心地が良い港に!



陳 孝仁

困っていなくても来なくなる、会いたくなる存在に。



本村 実枝子

県民のみなさまの認知度 100%!!

事業紹介／A コミュニケーション支援

▶ 国際交流・協力情報誌発行（外国人向け）

佐賀での生活に役立つ情報や、県・当協会及び県内の民間国際交流団体等のイベントの広報を記載し、県内の各市町に送付、設置協力いただき、情報の提供を行っています。

【発行部数】全カラー（2ページ）2,500部／年2回発行

【配布先】当協会賛助会員、各市町、公民館、教育機関、公共施設、国際交流団体、教会、エスニック料理店等



▶ 情報収集・提供

インターネット・メールやホームページ等で情報提供を行っています。イベント情報などの更新を随時行い、常に新しい情報を提供できるよう整え必要に応じて佐賀県発信の情報を多言語で配信します。

また、FacebookやLINEを活用し、さまざまな多文化共生に関する情報や災害情報、外国人住民に有益な情報を随時お届けします。



▶ 日本語教室支援

外国人住民のコミュニケーション支援、多文化共生の地域づくり、生活者支援を目的として、地域で活動している日本語指導のボランティアグループに対して会場費や教材費等の活動費の補助や広報協力等を行い、その運営を支援しています。

また、ボランティア向けの講座も実施しています。



■ 佐賀県内の日本語教室

※ 2021年3月時点

	地区	教室名
1	佐賀市	にほんごすいもく 水ようび
2		にほんごすいもく 木ようび
3		こども&おとなの日本語教室（どうようび日本語 in SAGA）
4		日本語会話教室（日本語ネットワーク佐賀）
5		日本語教室（こんにちワーク Saga）
6		国際コミュニケーションネットワーク かけはし
7		日本語サークル ラポール
8	唐津市	唐津日本語教室
9		にほんご晴
10	鳥栖市	とすにほんごひろば〜とりんす〜
11	多久市	多久日本語教室
12	伊万里市	日本語教室いまり
13	武雄市	たけお日本語教室
14	鹿島市	かしま日本語教室
15	小城市	おぎ日本語教室
16	嬉野市	カフェこくさいじん
17	基山町	きやまぐらしの日本語ひろば「あみいご」
18	有田町	日本語教室 in Arita
19	白石町	しろいし Wa!Wa!Wa!

▶ 日本語教師養成講座助成

外国人住民の受入基盤整備の一環として、日本語教師養成講座受講費用の一部を助成しています。また、当助成金受給者も含め広く県民を対象に日本語ボランティア研修会を実施しています。

※本助成事業は2021年3月31日をもって終了しました。



▶ 外国人による日本語スピーチコンテスト

外国人住民が佐賀での国際交流や異文化理解などについて日本語で意見発表することにより、多文化共生による地域づくりの推進を図ることを目的に、日本語スピーチコンテストを開催しています。



▶ 「やさしい日本語」講座

やさしい日本語の普及・啓発に努めるために、SPIRA 職員による「やさしい日本語講座」を出前講座形式で開催しています。これまで行政からの依頼で、市町職員や民生委員向けの講座を行ったり、やさしい日本語普及のためのパネル展等を実施しました。



事業紹介／B生活支援

▶ 在住外国人生活支援



生活相談、専門家相談

生活相談、専門家相談は2019年10月30日より「さが多文化共生センター」に引き継ぎました。
詳しくはP.26をご覧ください。

健康相談

済生会唐津病院の協力を得て、健康面や医療制度・手続きに関する外国人住民の相談会を年3回程度開催しています。



医療通訳

外国人住民の医療面に関する支援として、「医療通訳サポーター」を保健・医療機関等に派遣しています。
また、医療機関に働きかけ、多言語コールセンターの案内とともに、医療通訳サポーター派遣の一層の利用を促しています。
そのほか、医療通訳サポーターのスキルアップ講座と新規養成講座を隔年で実施しています。

▶ 子ども日本語学習サポーター等派遣



県内の小中学校に通う外国につながるを持つ児童生徒及びその保護者、学校関係者を対象に、子ども学習支援サポーターを派遣しています。学校からの依頼に応じて、当協会のボランティア登録者からサポーターを選定し、県内の小学校、中学校で日本語指導や通訳としてご活躍いただいています。また、年に1回サポーター養成講座を行っています。

①子ども日本語学習サポーター

児童生徒本人に対する日本語指導や学習のサポート

②子ども通訳・メンタルサポーター

児童生徒本人やその保護者と学校間での通訳・母語でのメンタルケア



▶ 防災支援



多文化防災セミナー

母国との災害の違いや、言葉の問題などから、災害時要支援者と言われる外国人。SPIRA では、外国人住民に日本で起こる災害について理解を深めてもらい、いざ災害が起こった時にも自分で自分の身を守り（自助）、適切な行動（避難等）に繋がられるよう、防災について学ぶセミナーを開催しています。セミナーでは、災害の基礎知識に加え、避難所や防災グッズについて学んだり、また消火器訓練や煙体験などの体験型の訓練を通じて学んでもらう機会も提供しています。また、日本人住民も参加できる公開型セミナーを開催することで、外国人との平素からの繋がりをつくり、いざという時お互いに助け合える関係づくりに取り組んでいるほか（共助）、参加した日本人住民に災害時に外国人が必要とする配慮などについて知ってもらう機会にもなっています。



▲多文化防災セミナー（体験型）



▲多文化防災セミナー（公開型）

外国人とともに取り組む！！「災害対応ガイドブック」作成

2019 年度、（一財）自治体国際化協会（CLAIR）の助成を受けて、災害時における外国人对応（配慮）をまとめた日本人向けのガイドブックを作成しました。県内の5つの市から外国人と日本人のメンバーを募り、5回の会議とミーティングを重ね、災害時に外国人が不安に思うことや必要な対応等を皆で話し合い作成しました。

このガイドブックに関する出前講座（無料）も行っていますので、ぜひお問い合わせください。



災害多言語支援センター設置・運営訓練

佐賀県と設置協定を締結している「佐賀県災害多言語支援センター」について、定期的に佐賀県国際課と合同で訓練を実施しています。

これまでには、全国の被災地で外国人支援活動を実施された専門家のアドバイスを受けながら、県内で災害が発生したことを想定し、その状況における多言語での情報発信や、避難所巡回等の外国人支援活動の訓練を行ってきました。



事業紹介／C 多文化共生の地域づくり

▶ 国際交流・協力情報誌発行（日本人向け）

県・当協会及び県内の民間国際交流団体等のイベントの広報、国際交流・協力を実践している県内の国際交流団体の紹介、各種研修会のお知らせ等を記載し、県内の各市町に送付、設置協力いただき、国際交流・協力に関する情報の提供を行っています。

【発行部数】全カラー（4ページ）2,500部／年4回発行

【配布先】当協会賛助会員、各市町、公民館、教育機関、公共施設、国際交流団体等



▶ 地球発見隊出前講座

多文化共生理解出前講座（外国人講師／SPIRA 職員）

国際理解講座を実施する学校、公民館、団体、PTA等を対象に、さまざまな国の歴史や文化を学び交流を深め、国際交流や協力への関心を高めることを目的に留学生、県内外国人住民の方を講師として派遣しています。

また、市役所や町役場、民生委員協議会を対象に、SPIRA 職員が講師となり県内外国人住民の現状、やさしい日本語など多文化共生社会づくりを目指すために必要なことを伝えています。



国際協力理解出前講座（日本人講師）

国際理解講座を実施する学校、公民館、団体、PTA等を対象に、国際交流や協力への関心を高めることを目的に県内CSOの海外経験豊富な日本人の方を講師として派遣し、各国での活動体験や日本との違い等を学ぶ機会をつくっています。



ランチタイム English セミナー

毎年人気の英語セミナーです。国際交流員を講師に迎え、多様なテーマについて話していただきます。ランチを食べながら参加可能です。



▶ ボランティア啓発・推進

5つの分野でボランティア登録を行い、各種イベント、日本語指導や医療現場での通訳等、地域外国人住民の方々への支援に協力していただいています。

【登録分野】ことば多言語、医療通訳、ことば日本語、子ども支援、ホストファミリー



▶ 多文化共生等助成事業



県内の民間団体が行う事業の振興を図り、本県の国際化推進、多文化共生の推進に資するため、事業経費の一部を助成金として交付しています。

▶ さが国際フェスタ



毎年10月を「さが国際フェスタ月間」とし、1ヶ月を通して、メインイベントを始め様々なイベントを開催しています。県内の国際交流・協力等の分野で活動している団体の取組紹介や、県民が参加できるプログラム、多国籍料理・雑貨の販売等を提供することで、県民の異文化理解・多文化共生・グローバル人材育成を図り地域と外国人住民との今後の連携・繋がりを構築する契機となることを目指しています。



▶ 多文化共生情報発信事業



ラジオ放送（えびすFM）

多文化共生の地域づくりを促進するため、県内の外国人住民やボランティアをゲストに迎え、多文化共生に関するさまざまな情報をコミュニティFM（えびすFM）のラジオ番組により発信しています。



【放送日時】 毎月第3水曜日 19:00～20:00

【出演者】 SPIRA 職員、県国際課職員、外国人住民、日本語教室ボランティア等

SPIRA フォトコンテスト

身の周りで起こっている県内の国際化の現状を写真に収め広く知らせることで、多文化共生の意識がまだまだ少ない人たちにも、佐賀に外国人が増えていること、外国人と共に暮らすことを身近に感じてもらうことを目的に、広く県民から作品を募集し、写真展を実施しています。

2020年度金賞受賞作品
【撮影者】
カルミナ ルイズ ムラカワさん
メキシコ出身



▶ インターンシップの受入

インターンシップの受入れを行い、学生のキャリアビジョンのお手伝いをしています。各種研修会・イベントの準備や運営補助、翻訳作業、JICA デスク佐賀国際協力推進員や県の国際交流員との対談など、さまざまな業務に参加してもらい、国際交流・協力や異文化理解、多文化共生についての理解を深めてもらいます。



さが多文化共生センター紹介

▶ さが多文化共生センター



県からの委託を受け、外国人住民に関する総合相談窓口としてさが多文化共生センターの運営を2019年10月30日よりスタートしました。センターでは在住外国人生活支援事業の生活相談・専門家相談を引き継ぎ、実施しています。また、新たに専任の相談員を2名配置し、相談体制の機能を強化しました。英語、中国語、韓国語、ベトナム語による対面相談の体制も整備しました。



● 生活相談

相談内容に応じて情報提供を行うほか、当協会登録ボランティア、各市町、民間国際交流団体等に引き継ぐなど、連携を図りながら対応しています。また、他県の地域国際化協会やCSO（市民社会組織）等民間団体と連携し、より良い解決方法について情報収集を図ります。

● 専門家相談

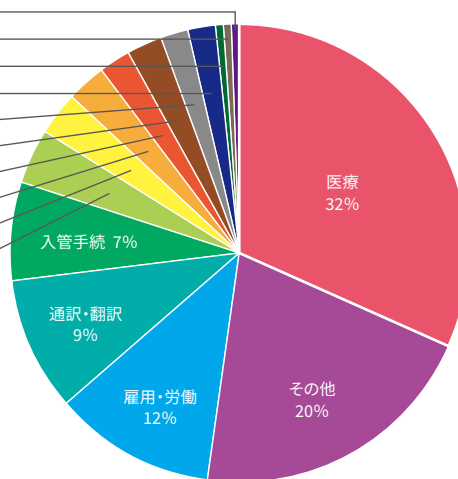
生活相談の中で専門家による対応が必要と判断される案件は関連機関と協力して相談を実施しています。

対面相談実施曜日

曜日	対応言語
月	やさしい日本語、ベトナム語
火	やさしい日本語、ベトナム語、中国語
水	やさしい日本語、ベトナム語、英語
木	やさしい日本語、ベトナム語、韓国語
金	やさしい日本語

- ・その他の言語については多言語通訳コールセンターや翻訳機（ポケットーク）を利用して対応
- ・コールセンターは19言語に対応（2021年3月現在）

防災・災害	1%
出産・子育て	1%
税金	1%
住宅	2%
教育（学校・大学・国際学校など）	2%
交通・運転免許	2%
社会保険・年金	2%
国際協力	3%
身分関係 結婚/離婚/DV等	3%
日本語学習	4%



■相談内容別集計
相談件数延べ371件（センタースタートから1年での実績）

相談方法

- 【時 間】 9:00～12:00、13:00～16:00（土日、祝日、年末年始は休み）
 【電 話】 0952-22-7830（つーつー なやみゼロ）
 【メール】 info@spira.or.jp
 【アプリ】 LINE、Facebook メッセンジャー（Spira saga）



賛助会員

日本人も外国人も暮らしやすい
多文化共生の佐賀を一緒に作っていきませんか。

～趣 旨～

当協会では、県民総参加の「多文化共生の地域づくりの推進」のために、賛助会員制度を設けております。
地域の国際化・国際交流、多文化共生の進展に向けて、広く賛助会員としての参画をお願いいたします。

対象

当協会の趣旨に賛同し、協会の運営活動に協力していただける
個人・団体・企業・機関等。

区分 会費

個人会員：年会費 1 口 3,000 円

団体会員（団体・企業・機関等）：年会費 1 口 10,000 円

会員 特典

- ・協会発行の国際交流 協力情報誌「HELLO SAGA」（年 4 回発行）
- ・民族衣装の無料貸出



SPIRA グッズ紹介

よりたくさんの方々に SPIRA のことを知ってもらうため、
各種ノベルティグッズを作成し、
イベント等様々な場面で活用しています。

- ・ドリップコーヒー
- ・エコバック
- ・紅茶
- ・ポケットティッシュ
- ・ボールペン
- ・クリアファイル



“ SPIRA の歌ができました ”

2021 年 2 月に、SPIRA の歌ができました。たくさんの方に口ずさんでいただけると嬉しいです。

Free your heart of borders

1. When the sun is shining brightly
I want to wash my heart and hang it in the light
Soaking up the sun as it grows bigger
I feel so much kinder than before

★ Free your heart of borders
Free your heart of borders
Free your heart of borders
Free, free your heart of borders

2. Everybody lives under the same sky
Birds don't know of the borders that we made
They only look at the landscapes beneath them
And navigate using memory and smell

3. Free is the wind, it knows no borders
Over the mountains, across the seas it blows
Today my cheek is brushed by the breeze
Perhaps tomorrow it brushes against yours

♪

4. On this really tiny planet
Why did we start making all these borders?
Why do we always fight with one another?
Are we not all, all the same inside?

★

5. I close my eyes and see children crying
I close my eyes and see children hand in hand
I close my eyes and see children laughing
And altogether, we start walking hand in hand

★★

こんなにいい天気ときは
心を洗濯して干したい
日にあたって膨らんで
やさしい気持ちになる

★ Free your heart of borders
Free your heart of borders
Free your heart of borders
Free, free your heart of borders

この青空はつながっている
渡り鳥は国境を知らない
大切なのは景色の
記憶と匂い

この爽やかな風はつながっている
風は国境を知らない
世界のどこかで
誰かの頬を撫でている

♪

こんなに小さな地球に
誰が国境を作ったのだろう
どうしていつも争うのだろう
みんな、みんな同じなのに

★

目をつむると子どもが泣いてる
目をつむると子どもが手をつないでる
目をつむると子どもが笑ってる
一緒に、手をとって歩き出そう

★★

職員や県内在住の外国人で歌う様子を、こちらのQRコードからご覧いただけます。



写真：2019 年度 民族衣装ファッションショー



公益財団法人 佐賀県国際交流協会 創立30周年記念誌

Saga Prefecture International Relations Association

2021年3月発行

■編集・発行

公益財団法人 佐賀県国際交流協会

〒840-0826

佐賀県佐賀市白山2丁目1番12号 佐賀商工ビル1階

佐賀県国際交流プラザ内

TEL 0952-25-7921 〈相談〉0952-22-7830

FAX 0952-26-2055



Homepage

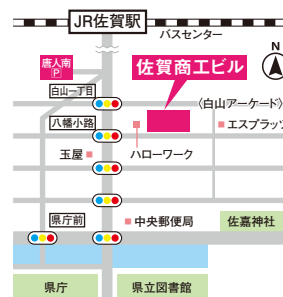


Facebook

■お問い合わせ・相談

月～金 8:30～17:15（相談対応は 9:00～12:00／13:00～16:00）

土日、祝日、年末年始は休み





公益財団法人 佐賀県国際交流協会

Saga Prefecture International Relations Association